

宇宙物理学教室

銀河・観測装置グループ

長田哲也(教授・505号室:nagata@kusastro.kyoto-u.ac.jp) 太田耕司(准教授・407号室:ohta@kusastro.kyoto-u.ac.jp)
岩室史英(准教授・401号室:iwamuro@kusastro.kyoto-u.ac.jp) 菅井肇(助教・511号室:sugai@kusastro.kyoto-u.ac.jp)
富田良雄(助教・516号室:tomita@kusastro.kyoto-u.ac.jp)

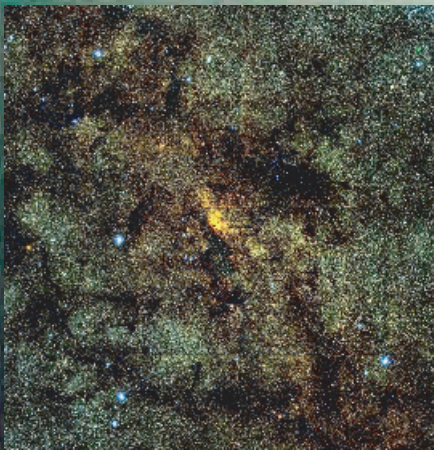
本グループでは国内外の望遠鏡を用いて様々な観測的研究を行っています。

- 銀河系及び銀河での星間ガスの存在条件や星形成過程
- クェーサー、AGNの宇宙論的進化
- 原始銀河とその諸性質

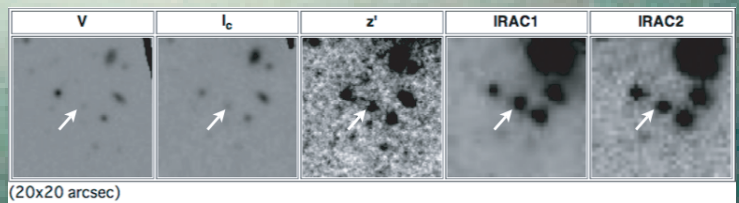
また、これらに関係して、以下の装置・望遠鏡の開発をしています。

- 京都大学3.8m望遠鏡
- すばる望遠鏡第二期観測装置FMOS
- 京都三次元分光器(3D II)
- チリ・アタカマ1m望遠鏡

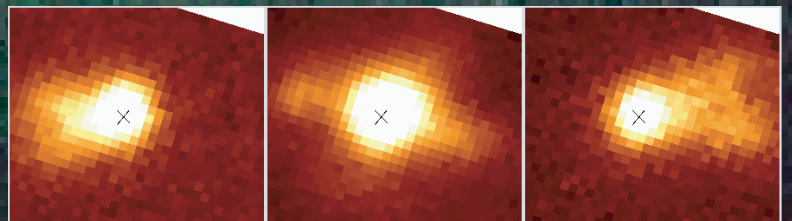
詳しくは下記オープンラボにて紹介いたします。



銀河系中心部のJHKs三色合成図
銀河系中心部の若い星等を探すことにより、減光則や星形成史を明らかにしようとしている。

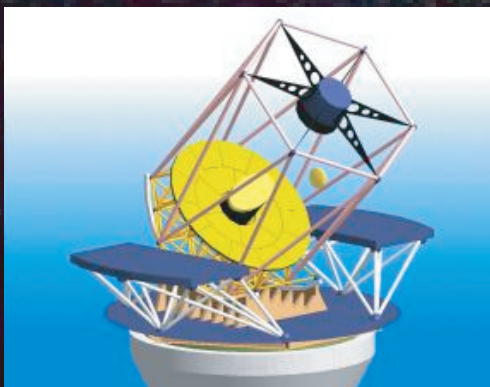


すばる望遠鏡で見つかった、120億光年彼方の銀河の1例
右ほど赤い光で見た姿。生まれて間もない銀河だが、すごい勢いで星を作っており、急成長中らしいことが最近わかってきた。



楕円銀河NGC1052

ドップラー効果を利用してガスの進行方向を見る。左図が地球方向に近づくガス、右図は地球から遠ざかるガスの分布に相当する。銀河からガスが吹き出ているのがわかる。



京都大学3.8m望遠鏡(完成予想図)

一枚の鏡で巨大望遠鏡を作るのは難しい。
そこで複数枚の鏡を組み合わせることで巨大望遠鏡を作る。
この技術は将来の数十m級望遠鏡につながる。

オープンラボ

- ・宇宙物理学教室合同ミニ講演会
時間 11:00~12:40、13:30~15:10
場所 4号館4階講義室
- ・ポスターによる研究紹介
時間 随時
場所 4号館5階会議室
- ・院生による相談会(お茶・お菓子あり)
時間 随時
場所 4号館5階談話室